

能勢妙見山

むし ばらい え

虫払会

じつとりと積もる心の塵が、今ゆるやかに解けていく

七月二十二日 終日奉行

能勢妙見山 開運殿にて

能勢妙見山

心に積もる塵を

払う日の物語

古い記憶、いまの影

能勢妙見山の虫払会。それは、まるで懐かしい記憶をたどるような、静かな祈りの行事です。むかし、人は三戸（さんし）という腹の虫に怯え、その報告を恐れたという話を聞きますが、そんなものは、いまや遠い昔話になったようです。

でも、私たちの心には、いまも、名も知れぬ小さな虫がうごめいていることに、ふと気づかされます。土用の湿った空気が肌にじつとりまとわりつくように、知らないうちに、心は疲れ、微かな重さとなって、そつと積もっていく。それが、暮らしのなかの小さなストレスや、漠然とした不安、あるいは名のない怒りや悲しみ、そして迷いとして、私たちの心の中に。ええ、これらこそが、いまの私たちの「心の魔」とでも呼ぶべきものなのでしょう。

この物語の続きは裏面で



日蓮宗霊場 NOSE MYOKENZAN

能勢妙見山

公共交通機関はありませんので、ご来山には自家用車等をご利用ください。

※ 妙見の森ケーブル&リフトの営業は終了となりました。

能勢妙見山 虫払会
ホームページはこちら▶



〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 661 TEL.072-739-0329

<https://myoken.org>

霊刀がそつと導く、静けさ

虫弘会の当日、わたしは妙見山へと続く道をゆつくりと歩きました。そこには、何百年も昔と変わらない、澄んだ空気が満ちていて、からだの隅々まで染み渡るようでした。お堂へ足を踏み入れると、目の前には、袋に静かに納められた霊刀「波切丸」。

能勢の妙見さんの、やさしくも深い眼差しのもと、刀からじんわりと放たれる気配を感じるにつれ、わたしの心に、いつの間にか巢食っていた厄介な「心の魔」が、まるで水面上に浮き上がるように、次第にはつきりと見えてくるような気がします。

儀式が始まり、霊刀がわたしの頭にそつと触れるその瞬間。凍りついていた時間

間が、ほんの少し、ゆるやかに動き出すようでした。心の中に絡みついていて重たい澱（おり）のようなものが、音もなく、それこそすると解けていくのです。それは、波切丸という名が示すような、荒々しいものではありませんでした。むしろ、静かに、しかし確かに、固く張っていた湖の



能勢妙見山に伝わる霊刀「波切丸」

氷に、ひびがじんわりと入っていくような、そんな不思議な感覚です。

新しいはじまりの予感

やがて儀式が終わり、妙見山の、あの清々しい風が頬をそつと撫でていきました。わたしは、ほんのわずかですが、何かが変わったことに気づきます。心の底に、

いつのまにか積もっていた塵が、いつのまにか消え、視界が少し広くなったような。新しい一步を踏み出すための、まだ微かだけれど、確かな力が、わたしのからだの奥に息づいているのを感じるのです。

もし、あなたの心にも、見えない「虫」が、いまもどこかでひそかにうごめいているような気がするなら、一度、能勢妙見山の虫弘会を訪れてみるのも、よろしいかと思います。きつとそこで、あなただけの「意味」を、静かに見つけることができるでしょう。

※この物語はフィクションです

虫弘会（むしばらいえ）とは

能勢妙見山の虫弘会は、古来の三戸信仰に由来するご祈祷です。一年の中で最も魔が入りやすいとされる「土用」の期間、疲れがちな心身に忍び寄るストレス、不安、怒り、迷いといった「心の虫」を、妙見山の霊刀「波切丸」で断ち切る行事です。

この日ご祈祷を受けるかたは、頭に霊刀を頂戴し、妙見大菩薩様と波切丸の霊力で心の邪気を払ってもらいます。心身を清め、新たな気持ちで再出発する機会にしてください。

日 時 : 7月22日 終日
場 所 : 能勢妙見山 開運殿
ご志納料 : 5千円より
(寺務所窓口にてお申し込み下さい)

能勢妙見山は人々の運命を司る星の王「北極星」の化身「妙見大菩薩」をお祀りする霊場です。運命を切り拓く力を授かりに、能勢妙見山へお越し下さい。



日蓮宗霊場 NOSE MYOKENZAN

能勢妙見山

公共交通機関はありませんので、ご来山には自家用車等をご利用ください。

※妙見の森ケーブル&リフトの営業は終了となりました。

能勢妙見山 虫弘会
ホームページはこちら▶



〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 661 TEL.072-739-0329

<https://myoken.org>